

「茅野市のDX」の全体像

茅野市の現状

強み

新たな知見や価値観を取り込み、より良いまちの実現につなげることができるポテンシャルを有している

弱み

限られた人手で貴重な自然の保全と点在する施設等の老朽化に対応し、市民の健康と産業の活性化を図り、“まち”を維持していく必要がある

機会

国は、各種支援策や特区制度を活用し、地域におけるデジタル技術やデータ活用を強力に支援

脅威・不安

コロナ禍により明らかになった日本全体としてのデジタル化の遅れに対し、地域がばらばらにデジタル化に取り組んでいる

➡ 国家戦略特区である「デジタル田園健康特区」の指定が追い風となり、デジタル技術やデータを活用し、全国の地方都市のモデルとして、地域が抱える課題の解決に先進的に取り組むことができるチャンス

出典 茅野市DX基本構想

重点テーマ(P50)

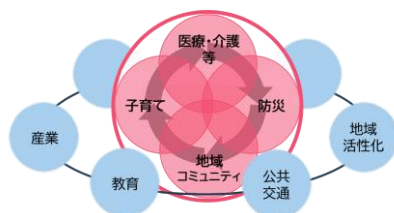
重点テーマ

- 医療・介護等
- 防災
- 地域コミュニティ
- 子育て

連携分野

- 産業
- 教育
- 公共交通
- 地域活性化 等

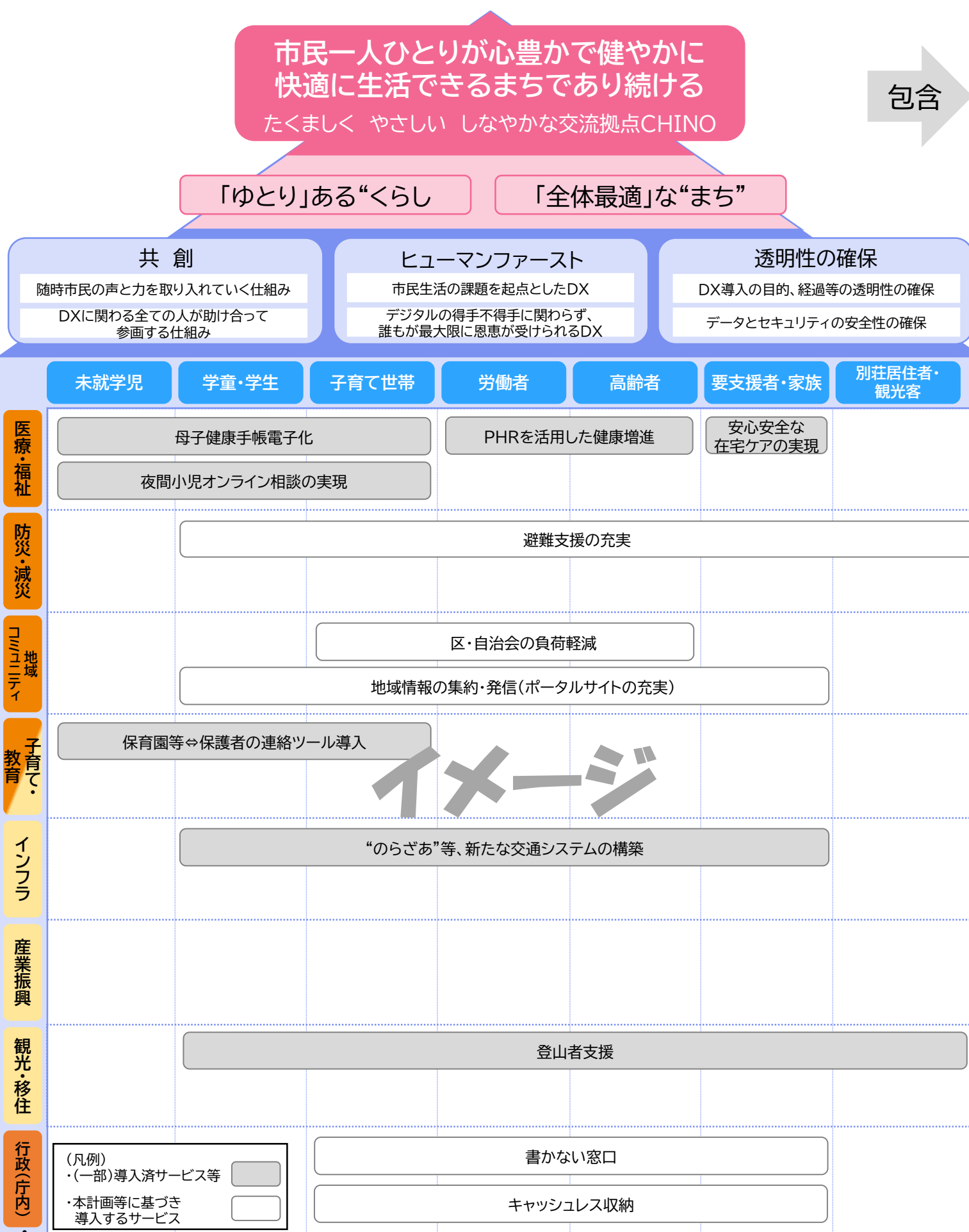
・令和4年度実施市民アンケート
・まちづくり懇談会等の調査
・茅野市の行政課題
を勘案し、市として重点的に取り組むべきテーマ



DXのゴール

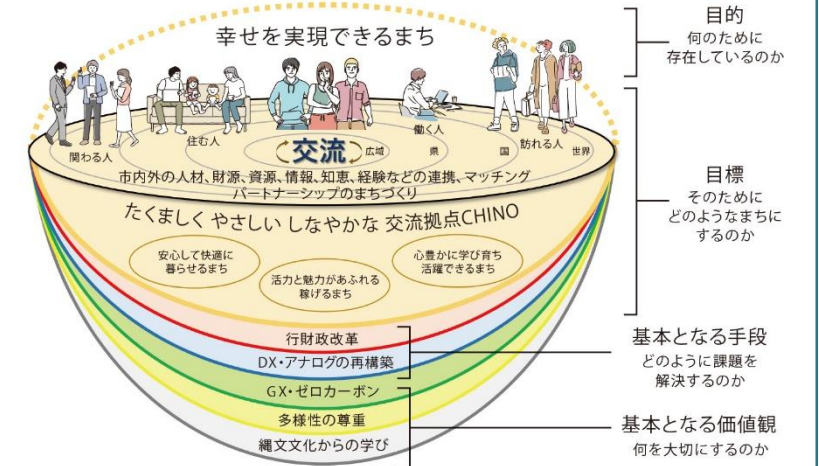
茅野市DX基本構想

重点テーマ及び取組施策例(令和7年～令和9年)



包含

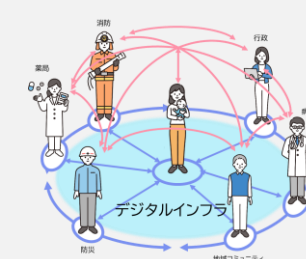
第6次茅野市総合計画



DXの仕組み

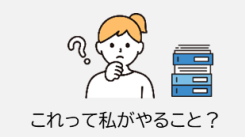
基本となる手法(P17)

デジタルインフラの活用



くらしや仕事の見直し(アナログの再構築)

YES or NO



4つの柱(P28～)

原則とルール

- 市民サクセス
- 透明性と権利保護
- 安心・安全第一のサービス設計
- 市民協働がバナンス
- データリスクの見える化と対応策の実施

意見の反映・参加の促進

意見反映の仕組み



誰もが参加できる機会の提供



効果的な情報発信



学びの場の提供

- スマートシチズンの育成と創出
- 持続可能な学びの場の展開



データ連携

データ連携基盤(都市OS)の活用



データ連携の注意点

